

SPECIAL

JAMSTEC創立40周年記念式典 開催報告

〔平成23年10月3日（月） 於：横須賀本部〕

平成23年10月3日（月）に、JAMSTEC横須賀本部において、創立40周年記念式典を開催いたしました。式典は加藤理事長のご挨拶に始まり、文部科学省 藤木完治 研究開発局長から祝辞をいただき、堀田理事による40年間の総括と展望の紹介、そして記念植樹が行われました。

■加藤理事長挨拶（抄録）

40年前の10月1日、当機構の前身である海洋科学技術センターが誕生いたしました。浅海域の居住実験から始まった活動は深海域への探査へと拡がり、さらには地球システムの総合的な理解を目標とし、あらゆる海域やそれに関連する陸域、大気へと研究領域を拡大してきました。研究対象も深海探査を中心とした技術開発から海洋地球に関わる物理現象や生命現象にまで拡げ、フロンティア研究システムに端を発するここ数十年の研究体制と研究インフラの充実にも相まって、地球科学分野では世界トップクラスの研究成果を創出していると思います。



記念植樹（金柑）

地球システムは巨大で複雑で、システム自体が生き物のように変わり続けています。想定を超える自然災害や異常

気象が頻発しており、なかでも地球温暖化は世界が一丸となって取り組むべき21世紀最大の課題といえます。さらに別の観点になりますが、海洋の別の課題として海洋資源の活用があり



左から、堀田理事、藤木研究開発局長、加藤理事長、平理事、瀧澤監事

ます。生物資源だけではなく鉱物資源などを、環境保全と両立しながら効果的に活用することが求められます。

JAMSTECの使命は、“海洋を通して地球を知り、地球との共生に資する”をモットーとしており、我が国ひいては人類の持続的な発展に貢献し、生活を幸福で豊かなものにする事です。40周年の節目を迎え、JAMSTECが果たすべき役割についてあらためて考えなければならないと思います。

本日、皆さまとともに我々に与えられた使命を再認識し、次の50周年さらに60周年へと、地球システムの解明に邁進していくことを申し上げ、創立40周年記念の挨拶とさせていただきます。

平成23年10月3日
理事長 加藤 康宏

PRESS

「地震・津波観測監視システム(DONET)」本格運用スタート

2010年1月より、紀伊半島沖熊野灘で観測機器の設置を進めておりました地震・津波観測監視システム(DONET)は、2011年7月に20観測点全ての設置が完了し、データ配信の試験運用を経て、同年8月より地震計データの防災科学技術研究所及び気象庁への提供を本格的に開始しました。

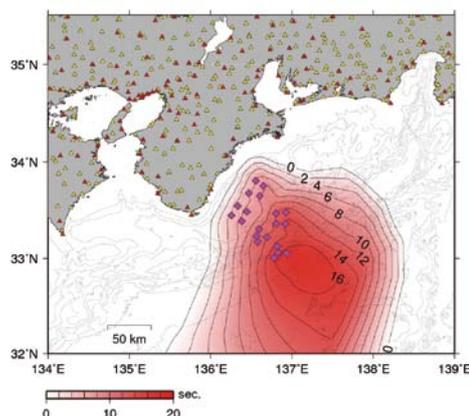
紀伊半島沖熊野灘は東南海地震の震源域であり、今後30年以内における発生確率は約70%とされています（地震調査委員会発表）。DONETはその巨大地震に備えた海底ネットワーク観測システム（「地震・津波観測監視システムの構築」文部科学省委託事業）で、震源域の水深約1,900m～4,300mの海底20カ所に地震計や水圧計を設置して海底ケーブルでつなぎ、広域かつ高精度なデータを連続的に観測しています。観測データは三重県尾鷲市古江町にある陸上局を經由して、JAMSTECなどにリアルタイムで配信されています。

東南海地震の震源域近傍で発生する地震を、DONETは陸上の観測点よりも最大十数秒早く検知します。これを生かした緊急地震速報に向けて、いま気象庁では準備が進められています。水圧計の観測データの提供は現在調整中ですが、津波解析の高度化が期待されます。

なお、DONETの観測データは、東海・東南海・南海など

複数の領域が連動して発生する巨大地震発生メカニズムに関する研究等にも活用する予定です。

（地震津波・防災研究プロジェクト）



海域で発生する地震の検知時間の差（DONETと地上観測点とを比較した場合）。深さ10kmの地震について、震央が赤色の濃い位置にあるほど、地震の検知が早いことを表します。例えば、0秒の線付近で地震が起きた際には、地震の検知は陸上での検知と時間差はありませんが、16秒の線付近で地震が起きた際には、DONETの観測点で陸上の観測点に比べ16秒程度早く検知できることを示します（JAMSTECのシミュレーションによる）。

TOPIC

海洋生物センサス(CoML) 科学推進委員会がコスモス国際賞を受賞

海洋生物センサス科学推進委員会が、財団法人国際花と緑の博覧会記念協会創設の2011年「コスモス国際賞」を受賞し、10月18日(火)大阪市いずみホールで開催された授賞式に主要メンバーが来日、出席しました。JAMSTECの白山義久研究担当理事は、当初からの同委員会のメンバーであり、受賞者一員として授賞式への参加の他、受賞記念講演会のコーディネートなどを行いました。なお、CoMLにはJAMSTEC海洋・極限環境生物圏領域の藤倉克則上席研究員をはじめJAMSTECの多くの研究者が参画しています。

CoMLは、80以上の国や地域の2,700人ものがネットワークを組み2000年から10年間実施されたグローバルスケールの海洋生物多様性研究です。今回の受賞は、前例のない国際プロジェクトを統括、推進し、多大な成果を上げたことが評価されました。



写真提供：財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

イベントのお知らせ

詳細はホームページ<http://www.jamstec.go.jp/>をご覧ください

● 横浜研究所 施設一般公開

スーパーコンピュータ「地球シミュレータ」を運用し、温暖化など様々な予測研究を進めているJAMSTEC横浜研究所の施設一般公開を行います。

日時：2011年11月26日(土) 10:00~17:00 (16:30受付終了)

実施内容：「地球シミュレータ」探検ツアー、公開セミナー、サイエンスカフェ、キッズハウス他

● 地球シミュレータ/HPCI戦略プログラム(分野3)合同シンポジウム 開催報告

9月21日(水)に、東京秋葉原コンベンションホールにて「地球シミュレータ/HPCI戦略プログラム(分野3)合同シンポジウム~防災・減災に資する地球変動予測『京コンピュータ』との連携~」と題したシンポジウムを開催いたしました。グローバルな気候や環境、集中豪雨など局地的な現象、地震や津波に対する今後の「京」と「地球シミュレータ」との連携などの講演が行われました。

● 産学官連携推進会議 開催報告

9月22日(木)に東京国際フォーラムにて第10回産学官連携推進会議が開催されました。共催機関であるJAMSTECは「持続的な(次世代)海底資源・エネルギーのシステム創出にむけて」と題して海底資源掘削やバイオCCS等の紹介を行いました。また、若手研究者発表として「合成開口ソナー」の展示も行い、多数の方にご来場いただきました。

● 横須賀本部施設一般公開 開催報告

10月1日(土)に、40周年を記念した「40th Anniversary JAMSTEC 平成23年度横須賀本部施設一般公開」を行い、4,199名の方にご来場いただきました。毎年人気の有人潜水調査船「しんかい2000」コックピット見学会やラボツアーのほか、探査機の実機や公開セミナーなど、ふだんは見ることのできない研究の現場を間近に見ていただきました。

● JAMSTECオリジナルカレンダー販売中

JAMSTECの研究活動や深海生物の写真で構成したJAMSTECオリジナルカレンダーを販売しています。

送料込みで1部450円。購入のお申し込みはインターネット(<http://www.jamstec.go.jp/j/pr/publication/calendar/>)もしくは、ファクシミリにて、お名前、送付先住所、電話番号、FAX番号、注文部数をご送付ください(FAX: 045-778-5498)。

なお、横須賀本部、横浜研究所、国際海洋環境情報センターのグッズ販売コーナーでもお買い求めいただけます。

受賞報告

賞	受賞対象	備考
平成23年度情報化促進 貢献個人等表彰「情報化 月間推進会議議長表彰」	日本沿海海洋予測 システム(JCOPE)	研究者や気象関係機関、船会社、漁業者等における海洋変動研究分野での活用や漁業者の操業計画策定、船舶の経済運航計画の策定、放射線モニタリング等への貢献が評価
ISSM(8th International Symposium Subsurface Microbiology) Poster Prize	井町 寛之(海洋・極 限環境生物圏領域 主任研究員)	ポスター「Cultivation of methanogenic community from marine subsurface sediments using a continuous- flow bioreactor」が評価
第52回大気環境学会年 会ベストポスター賞	竹谷 文一(地球環 境変動領域 研究員)	ポスター「2010年 春季にお ける福江島でのPM _{2.5} 濃度変動」 が評価
2011年度日本地球化学 会奨励賞	黒田 潤一郎(地球 内部ダイナミクス領域 研究員) 西澤 学(プレカン ブリアンエコシステムラ ボユニット 研究員)	研究「地球内部活動と海洋無 酸素事象のリンクの解明」が 評価 研究「地球化学と微生物学の 結合による生元素循環の進化 に関する研究」が評価

編集後記

歳月を経るに従って、次第に物事は変化していきます。「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」というように、齢40年の重みはJAMSTECを支える人や目的に対し、私たちに変化を感じさせてくれます。しかし、科学は、自然の摂理であり、不変です。まだまだ解らないことが多い海洋科学・地球科学の真の姿を求め、JAMSTECは取り組んでいくでしょう。皆様様の応援が励みです。(T.M.)